

17. 松本地域におけるインフルエンザ患者のワクチン接種状況とワクチンの効果についての検討

前角和勇、上條敦子、唐木里織、中村恵子、西垣明子、鳥海宏（松本保健福祉事務所）

キーワード：インフルエンザ、流行状況、ワクチン接種率

要旨：松本地域におけるインフルエンザ対策の情報共有の一つとして、松本保健福祉事務所感染症担当者と、管内小児科医師が中心となってメーリングリストを活用している。今回そこで集積されたデータを集計し、H22-23 シーズンと H23-24 シーズンのインフルエンザの流行状況と、インフルエンザ患者のワクチン接種状況について検討した。

今回の結果から、ワクチン接種は流行の拡大防止には一定の効果があると推察された。

A. 目的

インフルエンザの流行状況と罹患者のワクチン接種状況からワクチンの効果について検討する。

B. 方法

(1) 参加医療機関からの患者数、型、ワクチン接種状況の報告を集計する。

①参加医療機関数

H22-23 シーズン 15 医療機関

H23-24 シーズン 17 医療機関

②報告期間

H22-23 シーズン H22年11月10日～H23年6月3日

H23-24 シーズン H23年11月22日～H24年4月30日

(2) 新型インフルエンザ (A/H1N1) ワクチン接種受託医療機関からのインフルエンザワクチン接種者報告から管内のワクチン接種率を推察する。

報告期間：H22 年 10 月～H23 年 3 月

C. 結果

(1) インフルエンザ患者報告数（表 1）

H22-23 シーズンは全体の 38.7% が迅速 A 型で 55.9% が迅速 B 型であった。そのうち、0-15 歳未満が 82.9%、15 歳以上が 14.4%、不明が 2.7% であった。

H23-24 シーズンは全体の 83.1% が迅速 A 型で 10.4% が迅速 B 型であった。その内、0-15 歳未満が 83.3%、15 歳以上が 16.0%、不明が 0.7% であった。

表 1 インフルエンザ患者報告数 単位：人

	全数	A	B	陰性・不明
H22-23	5314	2054	2970	290
(割合)	100%	38.7%	55.9%	5.4%
H23-24	4226	3512	438	276
(割合)	100%	83.1%	10.4%	6.5%

(2) 患者数の推移

H22-23 シーズンは、初めに A 型が流行し（第 4 週ピーク）、その後 B 型の大きな流行（第 16 週ピーク）があった。（図 1）

H23-24 シーズンは、A 型の大きな流行（第 5 週ピーク）があったが、B 型の目立った流行はみとめなかった。（図 2）

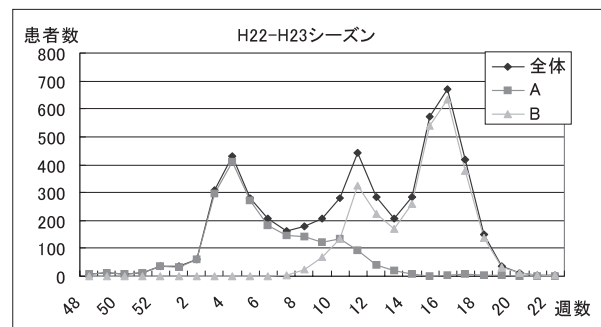


図 1 患者数の推移（H22-23 シーズン）

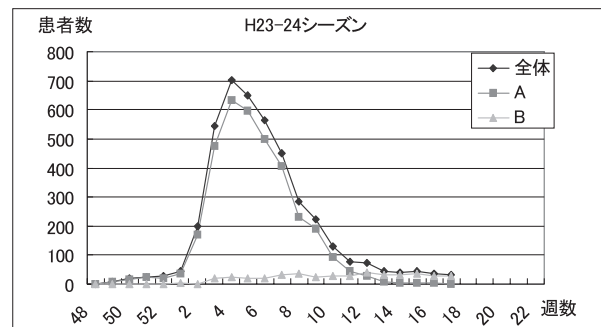


図 2 患者数の推移（H23-24 シーズン）

(3) ワクチン接種状況

H22-23 シーズンでは、迅速検査で確定したインフルエンザ患者の 46.9% がワクチン接種済みで、0-15 歳未満では 49.6%、15 歳以上では 30.8% が接種済みであった。

H23-24 シーズンでは、41.5% が接種済みで、0-15 歳未満では 43.8%、15 歳以上では 29.7% が接種済みであった。（表 2、3、4）

また、15 歳未満の迅速 A 型患者では、H22-23 シーズンは 45.0% が接種済みで、H23-24 シーズンは 43.0% が接種済みであった。（表 5）15 歳未満の迅速 B 型患者では、H22-23 シーズンは 52.4% が接種済み

で、H23-24 シーズンは 46.2% が接種済みであった。
(表 6)

表 2 インフルエンザ患者のワクチン接種歴
全体 単位：人

	済	未接種	不明
H22-23	2208	2500	606
(割合)	41.6%	47.0%	11.4%
(不明除く)	46.9%	53.1%	
H23-24	1560	2201	465
(割合)	36.9%	52.1%	11.0%
(不明除く)	41.5%	58.5%	

表 3 インフルエンザ患者のワクチン接種歴
0 歳から 15 歳未満 (型不明含む) 単位：人

	済	未接種	不明
H22-23	1998	2028	379
(割合)	45.4%	46.0%	8.6%
(不明除く)	49.6%	50.4%	
H23-24	1374	1762	384
(割合)	39.0%	50.1%	10.9%
(不明除く)	43.8%	56.2%	

表 4 インフルエンザ患者のワクチン接種歴
15 歳以上 (型不明含む) 単位：人

	済	未接種	不明
H22-23	201	452	114
(割合)	26.2%	58.9%	14.9%
(不明除く)	30.8%	69.2%	
H23-24	185	437	56
(割合)	27.3%	64.5%	8.2%
(不明除く)	29.7%	70.3%	

表 5 15 歳未満の A 型患者のワクチン接種歴
単位：人

	済	未接種	不明
H22-23	638	781	96
(割合)	42.1%	51.6%	6.3%
(不明除く)	45.0%	55.0%	
H23-24	1161	1542	247
(割合)	39.4%	52.3%	8.3%
(不明除く)	43.0%	57.0%	

表 6 15 歳未満の B 型患者のワクチン接種歴
単位：人

	済	未接種	不明
H22-23	1280	1162	231
(割合)	47.9%	43.5%	8.6%
(不明除く)	52.4%	47.6%	
H23-24	139	162	68
(割合)	37.7%	43.9%	18.4%
(不明除く)	46.2%	53.8%	

(注) 15 歳未満罹患者の「接種済み」の定義は、1 回以上接種とする。

(4) 新型インフルエンザ(A/H1N1) ワクチン接種受託医療機関からの接種者報告

「受託医療機関等における新型インフルエンザ (A/H1N1) ワクチン接種実施要領」に基づき、管内受託

医療機関から市町村を經由して報告があった、H22-23 シーズンのワクチン接種者数を基に算出した接種率は、0-15 歳未満は 51.8% であり、15 歳以上は 37.2% であった。

また、接種者の中で 12 月までに接種した割合は 97% であった。(表 7)

表 7 受託医療機関からの報告による H22-23 年ワクチン接種率 (期間 H22 年 10 月～3 月)

	接種率	10 月～12 月の割合	1 月～3 月の割合
0 歳～14 歳	51.8%	97.4%	2.6%
15 歳以上	37.2%	96.8%	3.2%

*接種率=接種者数(1 回以上接種)÷管内人口
(H22 年 10 月 1 日現在)

D. 考察

H22-23 シーズンは B 型が大流行し、H23-24 シーズンは A 型が流行したが、いずれも 15 歳未満の子供が流行の中心であった。

15 歳未満のインフルエンザ患者のワクチン接種状況については、管内市町村から報告があった 15 歳未満のワクチン接種率 51.8% と比較すると、H22-23 シーズンについては、B 型罹患者のワクチン接種率は 52.4% でほぼ同じ接種率となったが、A 型罹患者のワクチン接種率は 45.0% で低い値となったことから、ワクチン接種は感染予防に一定の効果があると推察される。また、B 型罹患者の接種率が高かった原因として、接種者の 97% が 12 月までに接種を終了していることから、B 型の流行が 3 月から 5 月であったため、ワクチンの効果が減少していた可能性が考えられる。

H23-24 シーズンについては、管内接種率は不明であるが、15 歳未満の罹患者の接種率が H22-23 シーズンと比べて低かったことから (49.6%→43.8%)、A 型の流行が大きかった原因のひとつと推察される。

今回のデータは熱心な医療機関の御協力により、H22-23 シーズン 5,314 件、H23-24 シーズン 4,226 件と多数の症例を集めることができた。全数調査ではないが大体の傾向は把握できたものと考えられる。

E. まとめ

インフルエンザワクチン接種については、流行の拡大防止と重症化を防ぐ効果があるといわれているが、今回の結果から、流行の拡大防止には一定の効果があると推察された。

(謝辞 松岡高史先生他メーリングリスト参加の先生方に謝意を表します。)